

## <就職先企業アンケート調査 実施概要>

愛知文教大学 キャリアセンター

### 【調査の概要】

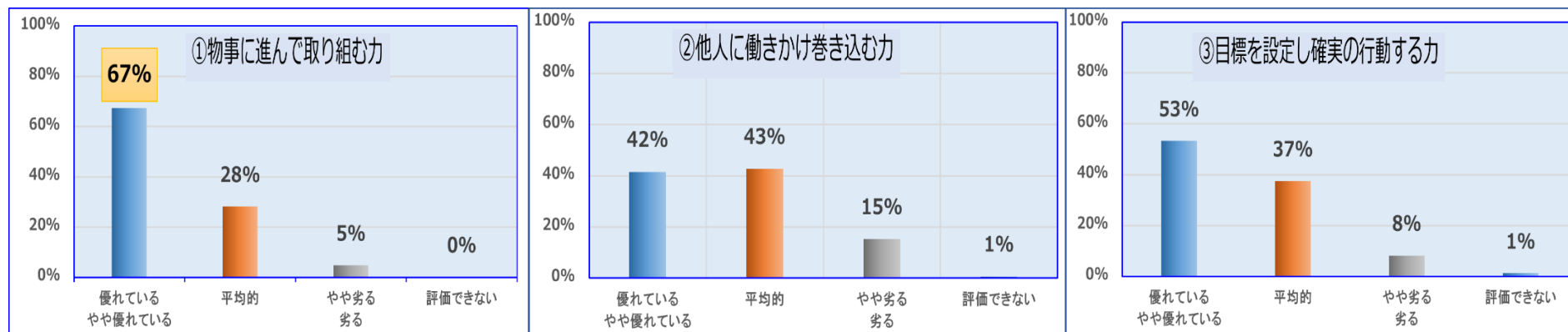
1. 目的 本学の教育課程において、基礎的な学力（教養・知識）を身につけ、その学力を基に判断力・思考力・表現力等を養い、社会の変化に対応しながら、主体的に行動し社会で活躍できる人材育成が不可欠である。  
本調査の実施により、大学に対する企業からの評価（社会的評価）や本学へのニーズ等を測り検証し、今後の教育研究活動や就職支援の改善に資することが目的である。
2. 調査対象 2021年3月卒から2025年3月卒（5年間）に学生が就職した主な企業累計  
「223社（学生数246名）が対象」
3. 調査時期 毎年7月～9月
4. 調査方法 郵便で配布し、郵便で回収「アンケート用紙、返信用封筒を同封。25年度よりWebアンケートを併用」
5. 回収率 企業 68.2%（152社/223社） 就職者 69.5%（171名/246名）
6. アンケート調査項目
  - (1) 社会人としての基礎的な能力（12項目）
  - (2) 知識・教養・技能（7項目）
  - (3) 外国語運用能力（3項目）
  - (4) 採用にあたって、どのような点を重視されますか（5項目）
  - (5) 学生生活を通じた人間形成について、本学はどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか  
(5項目の中から3項目選択)

## 1. アンケート調査項目 2021年3月卒～2025年3月卒5年間の累計（各グラフは企業アンケートによる学生の評価）

### （1）社会人としての基礎的な能力

地域社会や職場のなかで多様な人々と共に仕事を行っていく上で、自らの能力を最大限発揮し、普遍的に求められる社会人としての基礎スキルが社会人基礎力であり、その基礎力は、下記A～Cで構成される。

**A.前に踏み出す力（アクション）**「下記調査グラフ項目」は、主体性・働きかける力・実行力で構成され、組織のなかで仲間と協力しながら粘り強く仕事に取り組む力を示している。



### アンケート結果からの所感】

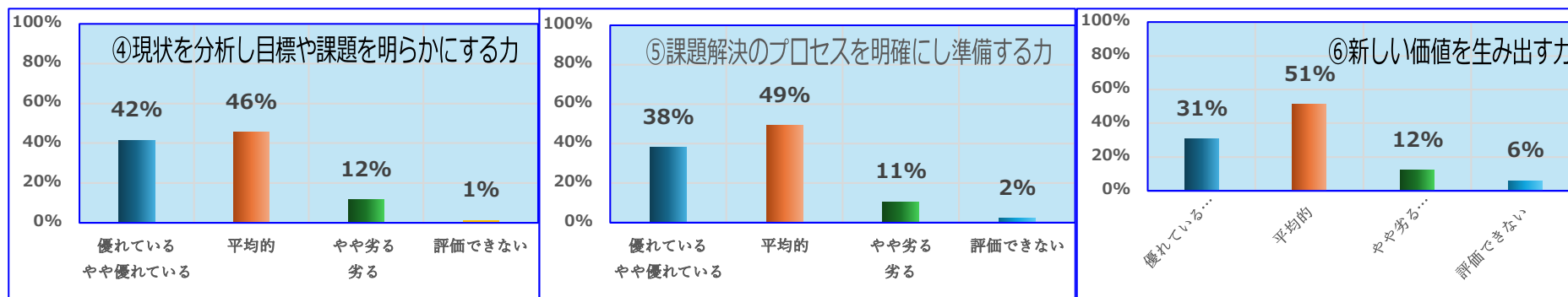
「前に踏み出す力（アクション）」の項目で、優れていると評価を得た項目は、「物事に進んで取り組む力」であり、67%の企業から良い評価を得ている。本学学生は、指示を待つのではなく、自ら積極的に行動する姿勢を表している。

また、他の項目についても平均的以上の評価を得ているが、「他人に働きかけ巻き込む力」については、「やや劣る・劣る」が16%で期待値を下回る回答であった。

学生時代の人間関係は、仲の良い友人と接することが多く、対人関係に慣れていないことに起因していると推察するが、社会人になることで立場や考え方の違う人々と接することが多くなり、人生経験を重ねるに従い改善できるものと考えられる。

## B. 考え抜く力 (シンキング)

「下記調査グラフ項目」は、課題・問題発見力、計画力、創造力の要素で構成され、何ごとにも疑問を持ち考え抜く力で、改善するための課題解決策を見つけるためのプロセスを明確にして、実践できる力を示している。



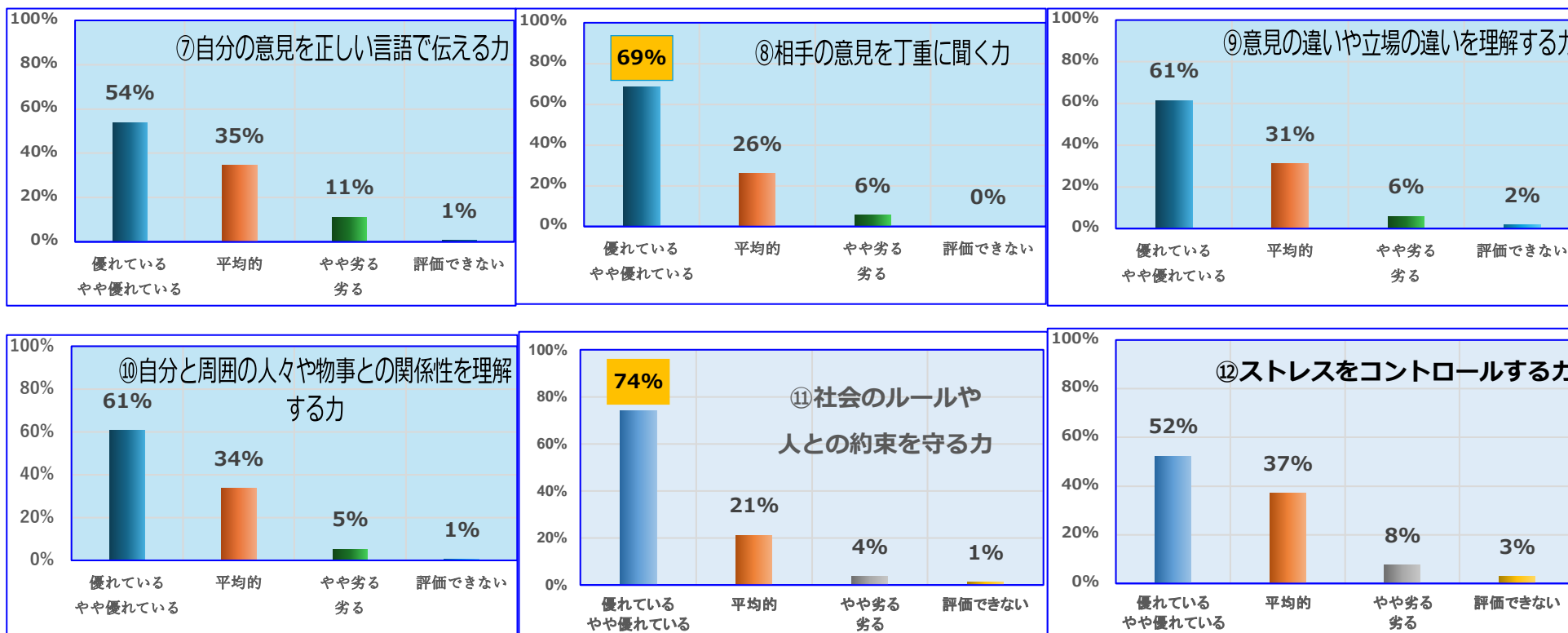
### アンケート結果からの所感

#### 【アンケート結果からの所感】

「考え抜く力 (シンキング)」の項目は、全ての項目で平均的以上の評価を得ているが、各項目の評価で、やや劣る・劣るが12%前後あり、若干高く気になるが、学生生活を送るなかで「常識にとらわれず、どうしてこうなるのか」を日々意識しながら生活する習慣を持つことで改善が図られると思われる。

## C. チームで働く力 (チームワーク)

「下記調査グラフの項目」は、発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレス抑制力で構成され、組織内グループや多様な人々と目標に向けて協働・協力する力。

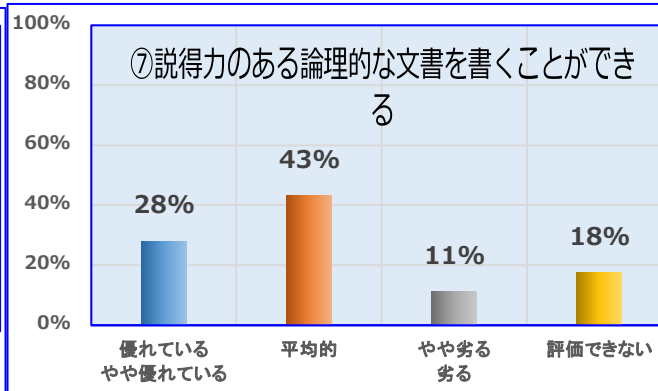
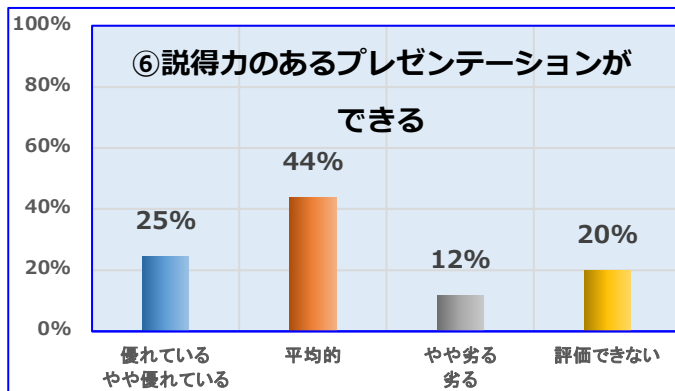
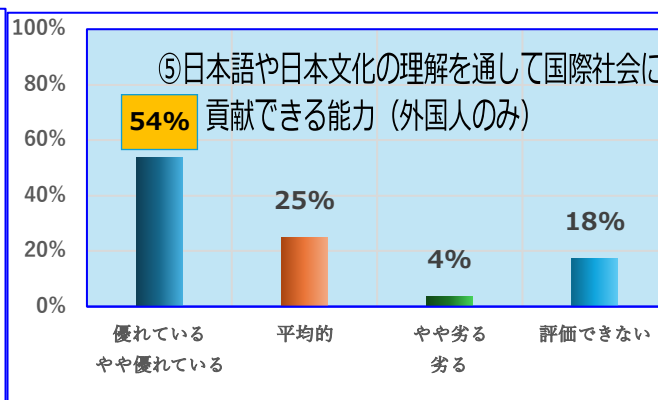
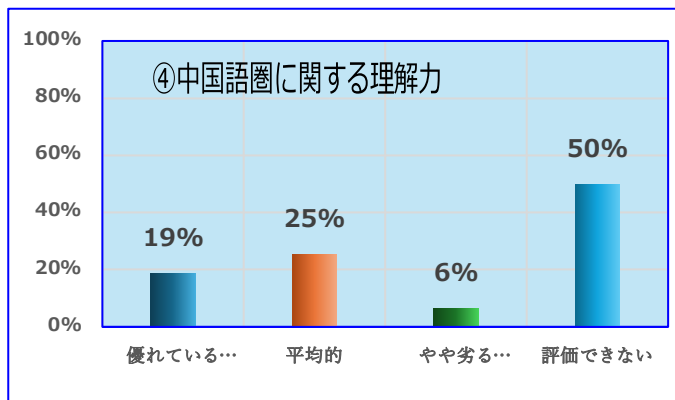
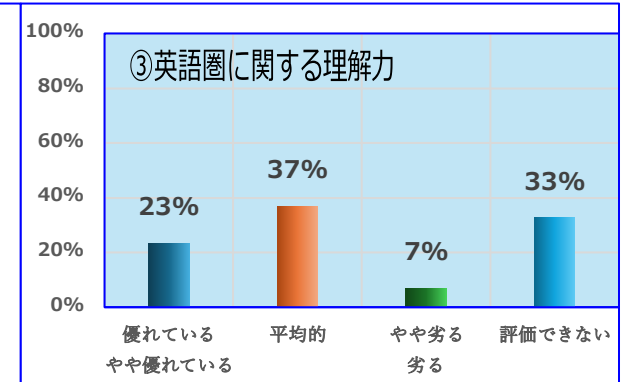
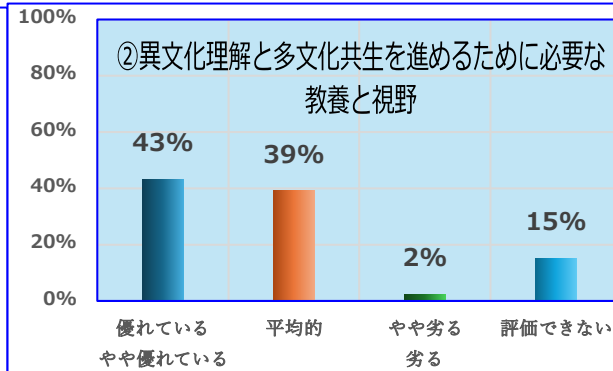
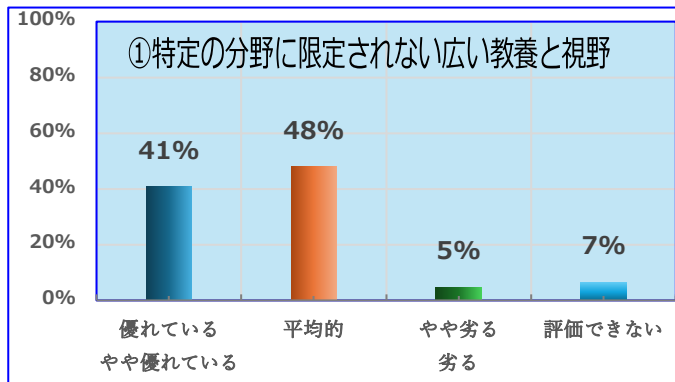


### 【アンケート結果からの所感】

「チームで働く力（チームワーク）」の項目に於いては、本学学生の評価は、総合的には良い評価を得ている。特に「相手の意見を丁寧に聴く力（傾聴力）」が69%、「社会のルールや人との約束を守る力（規律性）」が74%と企業から良い評価を頂いている。

この二つの項目は、相手の意見を丁寧に聴き、相手が話しやすい環境をつくる能力や社会の常識的なルールを守る力であり、総じていえば、意見や立場の異なるメンバーも尊重しつつ、自分の意見を的確に伝え多様な人々と共に目標に向けて協力するコミュニケーション能力を示している。

## (2) 知識・教養・技能



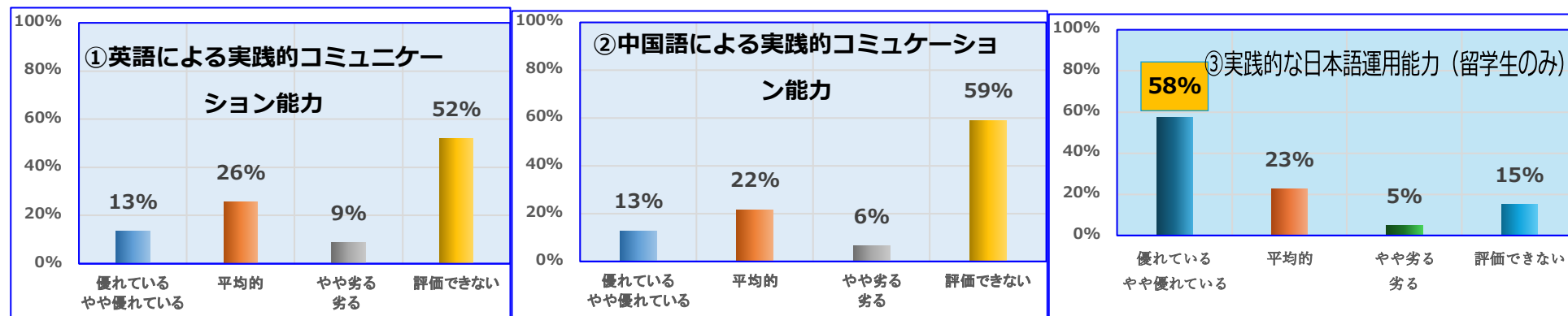
## アンケート結果からの所感】

・「知識・教養・技能の分野」は、概ね良評価を得ている。本学の学びは、専門分野や一般教養からの知識習得のほかに、現代文化・古典文化・歴史の視点からの学びと地域に根づいた「信長学・犬山学・小牧学・ことばと人文学」も知識、教養の醸成に役立っていると思われる。また本学は、各国からの留学生が多数在籍し、常に多言語が飛び交い、異文化で育った留学生との交流を深められるダイバーシティ的な要素があり、自然に幅広い国際力と教養が身につく多文化共生の環境下でもある。

・留学生対象の項目「日本語・日本文化の理解を通して、国際社会に貢献できる能力（留学生のみ）」については、優れていると評価した企業は54%と良い評価を得ている。このことも上記で記述したことに起因していると思われる。

・「説得力のあるプレゼンテーションをすることができる」の評価で「やや劣る・劣る」が12%と回答した企業の割合が若干高くなっているが、本学で意識的に継続実施している能動的に学修する「グループディスカッション、グループワーク、ディベート体験等」のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を今後更に充実することで改善に繋がるとと思われる。

## （3）外国語運用能力



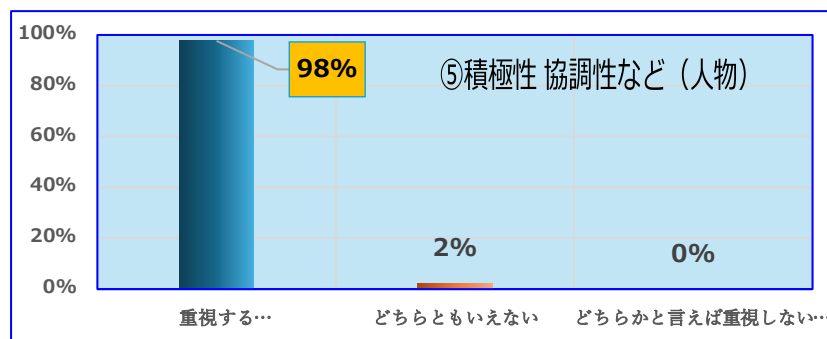
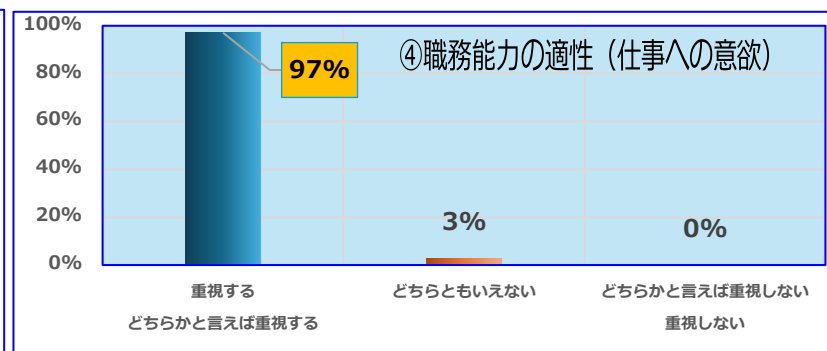
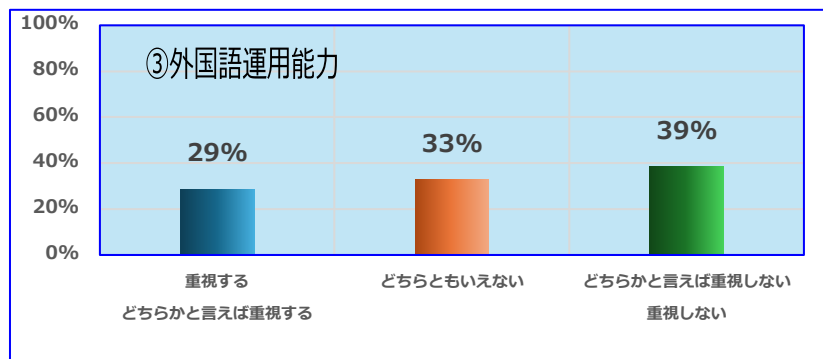
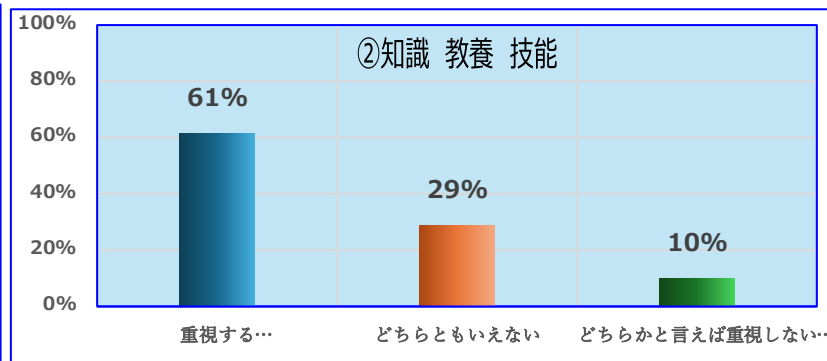
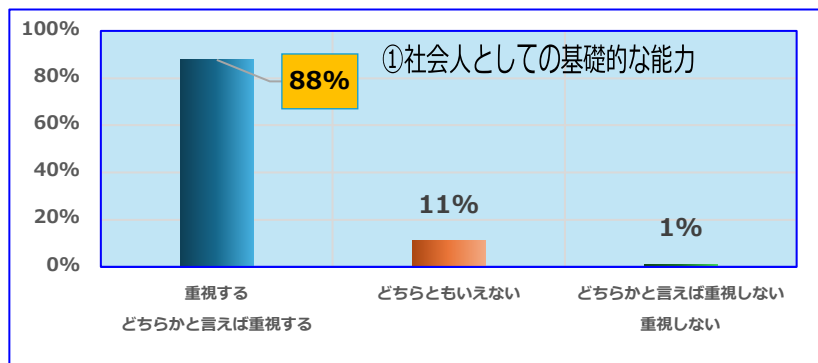
## 【アンケート結果からの所感】

・留学生への質問項目の「実践的な日本語運用能力（留学生のみ）」については「優れている、やや優れている」と回答した企業の割合が58%の評価を得ている。この要因として、留学生と日本人学生との多文化共生の環境下で、日本語能力が必然と身につく表れである。また、アルバイト経験も日本語能力を高める要因になっている。

・「英語による実践的なコミュニケーション」と「中国語による実践的なコミュニケーション」項目の設定で評価できないと回答

した企業が多くなっているが、企業の日常業務で、中国語・英語を活用する機会が少ないために評価できないと回答した割合が高くなったと思われる。

#### (4) 採用にあたって、どのような点を重視されますか。

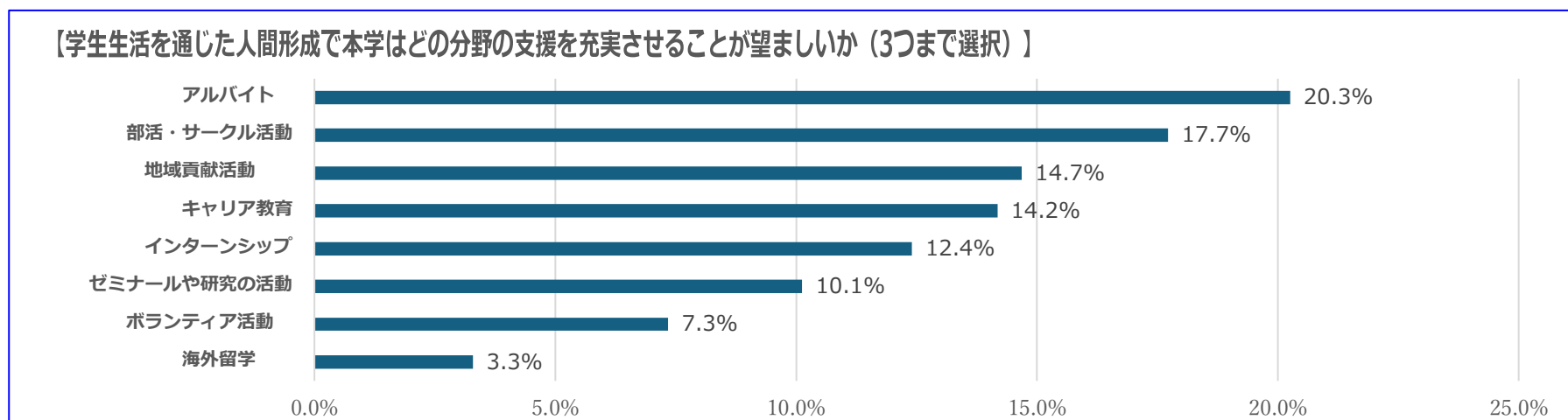


### 【アンケート結果からの所感】

- ・採用にあたって、企業が重視する項目として「積極性・協調性（人物）」98%、「職務能力の適性（仕事への意欲）」97%、「社会人としての基礎的な能力 88%」の3要素に力点を置いていることが分かる。
- ・外国語運用能力の項目で「どちらかと言えば重視しない、重視しない」が39%で、必ずしも肯定的ではないが、国内におけるグローバルなビジネス展開は、持続的成長の実現に向けて重要な企業活動の一つとなっており、グローバルに活躍できる人材の育成は企業経営上の重要な課題であり、外国語教育は大学における学修として継続的に学ぶことが求められていると思われる。

### （5） 学生生活を通じた人間形成について、どの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか。

（8項目を選択肢とし、3つまで選択可とした。）



### 【アンケート結果からの所感】

- ・回答のうち、上位を占める項目は、アルバイト、部活・サークル活動、地域貢献活動が上位を占めている。特にアルバイトを選択する企業割合が、20%と高く、学生時代に企業や仕事に触れ合える貴重な体験と実際に働くことで、社会の機微を知り対人交渉能力や責任感、社会性等を養い社会経験を積んでほしいとの表れであると思われる。
- ・以上のアンケート結果や自由記述から、「課題を発見し解決する力」や「コミュニケーション能力（チームワーク力）」を求める企業が多くあった。これまでの大学教育では、専門教育、一般教育等を身につけることが主体であったが、企業からは課題（問題）の発見と解決力の学習など社会性を学ぶ教育を求める声も多く寄せられた。大学教育のなかで、アクティブラーニング等のグループで学ぶ機会の更なる創出とグループ内で学生自身の考え方や意見を発表、集約する機会を更に多く持つことが求められていると感じた。

### 【アンケート全体を通しての所感】

本アンケート調査の結果から、本学卒業生は総じて「社会人としての基礎的な能力」や「協調性・規律性」といった人物面において、企業から安定した評価を得ていることが明らかとなった。特に、主体性をもって物事に取り組む姿勢や、相手の意見を丁寧に聴く傾聴力、社会のルールを守る規律性については高い評価が寄せられており、組織の一員として円滑に行動できる人材として認識されていると考えられる。

一方で、「他者を巻き込み働きかける力」や「説得力のあるプレゼンテーション力」など、主体性をさらに発展させた対外的な発信力・影響力の面では、今後の伸長が期待される結果も見受けられた。これらは学生生活における人間関係の範囲や経験の差による影響も考えられるが、アクティブ・ラーニングやグループワーク等を通じて、改善・強化が可能な領域であると捉えられる。

また、企業が採用時に最も重視している点として、「積極性・協調性」「仕事への意欲」「社会人基礎力」が上位を占めており、専門知識や外国語能力以上に人物的要素や社会性を重視する傾向が改めて確認された。学生生活を通じた人間形成においては、アルバイ

ト、部活動・サークル活動、地域貢献活動への期待が高く、実社会との接点を持つ経験が、就業後の適応力や成長に大きく寄与するものと考えられる。

以上の結果を総合すると、本学の教育は学生の基礎的な社会性や協調性の育成に一定の成果を上げている一方で、課題発見力・問題解決力やコミュニケーションを伴う実践的な表現力を、より意識的に育成していく必要性が示唆された。今後は、企業ニーズを踏まえた教育課程の検証を行うとともに、学生が主体的に考え、発信し、協働する機会を一層充実させることで、社会でより高く評価される人材育成に繋げていきたい。